

2024 年 2 月 29 日

2023 年度聖路加国際大学大学院看護学研究科
課題研究

市区町村保健師が
父親の状況を把握する方法と課題
**Strategies Employed by
Community Public Health Nurses
in Understanding Fathers**

22MN029
山本あかり

要旨

目的：本研究は、市区町村保健師が父親の心身や生活の状況をどのような方法や手段を用いて把握しているのかを理解し、それに加え、市区町村保健師が認識する父親の状況把握に関する困難課題を明らかにすることを目的とした。

方法：母子保健事業の経験がある3名の市区町村保健師を対象とし、半構造化インタビューを実施した。得られたデータは保健師が用いている方法・手段と、保健師が認識する困難課題として、それぞれ質的記述的に分析した。なお、本研究は聖路加国際大学研究倫理審査委員会の承認を受けて実施した(承認番号:23-A049)。

結果：市区町村保健師が父親の状況を把握する方法・手段は、合計4カテゴリーが得られた。市区町村保健師は、父親と対面する機会が少ないものの、保健師が自ら【父親と対面する機会を作り出し直接的に把握する】ように努めていた。また、父親と接することが困難な状況を踏まえて、【父親と接する機会がある関係機関・人物を介して把握する】ことで、直接接することができなくとも、人を介して得た情報から父親の状況を想像し向き合っていた。さらに、保健師は母親を介して情報が得られるよう【母親と信頼関係を築き父親把握の土台とする】ことを心掛けていた。それに加え、保健師独自の視点をもって【父親に関係する違和感のサインを読み取り父親把握の糸口とする】ことで、気づきを生かした把握を行っていた。市区町村保健師が認識する父親の状況把握における困難課題としては、【父親と接する機会の少なさから直接話を聞くことに難しさを感じる】、【父親と接したいが保健師が直接関わっている母親が壁になる】、【母親を介した父親把握に限界を感じる】、【業務バランスによるジレンマに直面する】、及び【父親を対象とした業務が標準化されていない状況に難しさを感じる】の合計5カテゴリーが得られた。

結論：保健師は父親と直接接することが少ない状況において、父親の様子や人物像を知るために、対象把握の段階から関係機関と連携したり、家族システム理論を活用し母親の態度から父親の様子を推測したりしていた。さらに、家庭内の状況を母子だけでない家族の生活を映し出す鏡だと考え察知するなど、多様な方法を用いて、試行錯誤している様子が明らかになった。明らかになった方法・手段には、ポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチの場を活用した方法が混在していた。また、保健師は父親の状況把握の必要性を感じているが、現状の母子保健事業の場を活用し実施することに困難を抱えていた。今後は職域との連携等も視野に入れ、組織として課題に対処し、明らかになった方法を用いて父親の心身および生活状況を把握することで、父親による児童虐待を防止に努めることが求められる。